

岐路に立つ日韓関係

—2015年の課題を考える

慶應義塾大学名誉教授

小此木 政夫
おのぎ まさむ

- * 変化した対外関係の優先順位
- * 一体化した歴史問題と慰安婦問題
- * 歴史問題が問う日韓条約体制
- * 日韓条約50周年を迎える日韓の動き
- * 慰安婦問題をどう処理するか
- * 日韓関係を経済面から見直す
- * 電子部品業界で深まる相互依存
- * 加速する業務提携や共同開発
- * 2015年以降の共生戦略を探る
- * 日韓関係の共通分母は何か



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は年1回のアジア平和貢献センターとの共催ということで講演会を企画いたしました。講師をしていただきます小此木先生はこちらの経済倶楽部にも何度もお見えですので、詳しいご紹介の必要もないかと思いますが、慶應大学を卒業され、韓国の延世大学、アメリカのジョージ・ワシントン大学に留学、慶應大学の法学部長を経て、今、名誉教授をされておられます。韓国問題にはたいへん詳しくいらっしゃいます。その日韓関係は、日中関係と同様に今たいへん難しい状況にございます。それがすぐ解決するような問題でもないようございますが、先生のほうから、どういう背景があって、どういう糸口があり得るのか、じっくりお話を伺え

るかと思えます。

それでは、共催してアシア平和貢献センターの理事長の西原春夫先生から一言いただきたいと思えます。（拍手）

西原 ただいま柴生田理事長からご紹介ございましたアシア平和貢献センターの理事長をしております西原でございます。

今日はいつもとどおりの体裁の講演会でございますけれども、ただいまご紹介ございましたように、今日だけはアシア平和貢献センター、経済倶楽部との共催ということになっております。これは一昨年、当時の浅野理事長とのお話し合いで、私もアシア平和貢献センターの人脈とこちらの人脈は多少異なるところがあるのではないだろうか。経済倶楽部の講演会を拝